

4 活動の様子



投げ方指導



岩渕選手と一緒に



緊張のレーサー体験



車いすのレースについて



真剣勝負



試合をやってみよう



シッティングバレーにチャレンジ



石川選手の講話



車いす体験

5 子供たちの声



「挫折や壁があっても、乗り越えようとする力が大切」ということを教わりました。世界が戦うオリンピック・パラリンピックに興味がありました。

栃木第四小学校 6年

誰でも大変なことはあるけれど、「大変とは大きく変わるチャンス」だと聞いて、そういう人になりたいと思いました。

大平南中学校 3年

シッティングバレーボールは、想像していたより難しかったです。教えていただいたことを生かして、目の前の目標を少しずつ超えていきたいと思います。

大宮南小学校 6年

障害に関係なく自分の好きなスポーツを楽しむことは、とてもよいことだと感じました。今日の体験で知ったパラスポーツをぜひ応援したいと思います。

合戦場小学校 6年

一番心に残ったのは、「できないは終わりじゃない」の言葉です。岩渕選手のように、夢に向かってあきらめずに頑張っていきたいです。

寺尾小学校 6年

思い通りに車いすを操作する難しさが分かりました。増渕さんの話に勇気をもらいました。中学校に進んだら、目標に向かって努力できることを見付けて、頑張りたいです。

南小学校 6年

1 主な取組内容

◆推進校での実践◆

○オリンピック・パラリンピアン等による講話や交流会

- ☆ 金田 典子 選手〔シッティングバレーボール パラリンピアン〕
9月18日（水） 関谷小学校・箒根中学校
- ☆ 鈴木 徹 選手〔義足の走高跳 パラリンピアン〕
11月28日（木） 西小学校・三島小学校
12月11日（水） 豊浦小学校・東那須野中学校
- ☆ 山下 千絵 選手〔義足の短距離（100m、200m） パラアスリート〕
11月29日（金） 槻沢小学校・大山小学校
- ☆ 平澤 奈古 選手〔アーチェリー パラリンピアン〕
12月5日（木） 稲村小学校・埼玉小学校
- ☆ 増渕 倫巳 選手〔車いすバスケットボール パラリンピアン〕
11月13日（水） 厚崎中学校
- ☆ 眞田 卓 選手〔車いすテニス パラリンピアン〕
12月10日（火） 東原小学校



平澤選手の講話



金田選手の講話



鈴木選手の講話

○各学校での実践活動

- ☆ 家庭科：スポーツと栄養学 ホストタウン「オーストリア」給食
- ☆ 英語科：路線図を使っての道案内
- ☆ 特別の教科 道徳：「より高い目標を目指して」（勇気と希望）
- ☆ 総合的な学習の時間：「出場国について調べよう」
- ☆ 学級活動：パラリンピック種目を手作りしよう
- ☆ 運動会・体育祭：聖火リレー・マスゲームで五輪チャレンジ
- ☆ 委員会活動：体育委員会、広報委員会、給食委員会のオリンピック・パラリンピックの啓発活動

2 成果

- ・ オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。
- ・ パラスポーツは不可能を可能に変える魅力があることから、前向きに挑戦し、あきらめないで取り組むことの大切さについて考える機会になった。
- ・ 「I'mPOSSIBLE」教材を使用して事前授業を行ったことで、パラスポーツへの理解が深まった。
- ・ 実技経験は限られた生徒のみだったが、実践を観戦することで「見る」の視点を学ぶことができた。
- ・ 講話からオリンピックの価値「勇気・強い意志・公平・インスピレーション」の重要性について理解することができた。
- ・ パラスポーツへの理解を通して、教員も改めてインクルーシブ教育を考える機会となった。
- ・ 単発のイベントで終わることなく、事前・事後を含め横断的な指導を行うことができた。
- ・ 義足の体験を通して、仲間との関わりや障害をもつ方々の思いを考えることができた。



山下選手に質問

3 課題

- ・ できるだけ多くの児童生徒に講演を聞かせたいと思うが、小学校では発達段階に合わせて、講演を2回に分けるなどの工夫が必要であった。
- ・ 車いすの選手をお迎えするに当たり、学校のバリアフリーについて課題が見えたので、検討していく。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピックが終わった後も継続していきたい事業である。

4 活動の様子



車いすテニスにチャレンジ



義足を間近に見て、触って



金田選手にお礼の花束



鈴木選手を囲んで写真撮影



車いすバスケットボールの試合



義足歩行を体験



アロー(矢)を引くのは難しい



義足を触らせてもらって

5 子供たちの声



平澤選手のお話を聞き、継続は必ず力になるのだなと感じました。

稲村小学校 5年

パラリンピックに向けて全力で戦っている姿がとてもカッコ良かったです。ぼくも全力で応援します。

埼玉小学校 6年

「試す・知る・感謝」を心がけ、色々なことに挑戦していきたいです。

東原小学校 5年

鈴木とおるさんの話を聞いて「何をするにも、夢中になることが大切」という言葉が、心に残りました。

三島小学校 6年

来年のオリンピック・パラリンピックを見たいと思いました。義足で歩くのは思ったより大変でした。

豊浦小学校 4年

心のバリアフリーを実現していきたいです。東京オリンピック・パラリンピックが楽しみです。

東那須野中学校 3年

初めてパラリンピックの選手に会ってドキドキしました。

関谷小学校 3年

どんなに苦しくても、自分の夢をあきらめずに取り組んだのはすごい。自分も苦しくてもあきらめずに挑戦していきたいです。

西小学校 3年

山下選手の前向きな気持ちを見習わなければならぬと思いました。

大山小学校 5年

車いすを巧みに動かしてゴールする姿に胸を打たれました。日本で開催されるオリ・パラがとても楽しみです。

厚崎中学校 1年

山下さんのおかげで、とても大切なことを教えてもらうことができました。

槻沢小学校 6年

障害があっても生き生きと話をする講師を見て、もっと前向きに生きなければと思いました。

箒根中学校 3年

1 主な取組内容

◆推進校での実践◆

○パラスポーツ選手との交流会の開催

車いすバスケットボール TOCHIGI レイカーズの増渕倫巳選手（ロンドンパラリンピック出場／2012年）等との交流会を実施した。選手と一緒に鬼ごっこやゲーム形式の体験をしたり、選手自らの経験からあきらめない気持ちについての話を聞いたりすることができた。

- ☆ 10月25日（金） ・ 吾妻小学校
- ☆ 10月29日（火） ・ 葛生南小学校
- ☆ 11月26日（火） ・ 西中学校 ・ 常盤中学校

○オリンピック・パラリンピックに係る研究授業

オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を喚起したり、その意義を学んだりするために、総合的な学習の時間等で、「I'mPOSSIBLE」を活用して研究授業を実施した。

◆市内各小中学校での実践◆

○オリンピックに出場した選手による講演会の開催

12月5日（木）に蔵田和彦氏（アトランタオリンピック出場・ボート競技／1996年）による講演会を実施した。夢をつかむには努力が大切であるとの趣旨の講話とともに、エルゴメーターを使ってボート競技の模擬体験もできた。

○パラリンピックスポーツ「ボッチャ」の体験

「ボッチャ」の用具を貸し出し、小・中学校で活用を図った。

○調べ学習用の書籍の購入と活用

「心にのこるオリンピック・パラリンピックの読みもの（全3巻）」を全小・中学校に配布し、調べ学習等で活用を図った。



交流会



講演会



ボッチャ体験

2 成果

- ・ 交流会や講演会においてオリンピックやパラリンピアンと児童生徒が直接触れ合ったり、話を聞いたりすることで、オリンピックやパラリンピックへの興味・関心を高めることができた。
- ・ パラリンピアンとの交流会における車いすバスケットボールの体験や講話を通して、障害のある方への関心と理解を深め、また共生の大切さやその実現について考える契機になった。
- ・ 研究授業と交流会の関連を意識しながら推進を図ることができた。

3 課題

- ・ オリンピック・パラリンピック教育を推進するためには、実施前年度中、または年度当初に教育課程に位置付けておくことが大切である。
- ・ オリンピアンやパラリンピアンとの交流会の中に児童生徒が競技を体験する場面を設定する際、学校の規模により一人の児童生徒が体験できる機会が異なるため、事前に実施内容を十分に検討する必要がある。